

バカと共奇妙すぎる共闘

デュランダル v 2

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

バカテス×クトウルフTRPGをやってみた(笑)

ただし、システムを使っているだけで人物は認識していない。動画を作るのを諦め小説でやってみた感じ。もし、間違っていたら指摘をお願いしたいけど巻き戻しはしないので悪しからず

目次

死にいく準備	1
旧初台駅に集合	4

## 死ににいく準備

3月の中旬、僕達は春休みを謳歌していた。高校生活を一年経過して、緩みきっていた。

「ねえ、雄二。獣人間って知ってる？」

「いや、知らないが？突然どうした？」

「実は春休み前に須川君から聞いたんだよね。なんでも旧初台駅と青山霊園に人間の死体を喰らう獣人間がいるらしいんだよね」

明久はソファァーにクデーとしながらゲームを操作していた。

「へえ、そうなのか？このゲームも飽きたからな。秀吉とムッツリーニも誘うか？」

「いいんじゃないかな？で、行くのはいいけど旧初台駅をどうやってはいる？」

「忍び込んだらいいんじゃないか？バレても怒られるぐらいからな」

雄二はコントローラを手放して床に寝転んだ。

「なら、秀吉とムッツリーニに電話するね」

明久もコントローラを手放して電話をかけた。

「もしもし・・・それでね・・・そうそう・・・今から・・・分かったよ」

「で、どうだった？」

「二人ともいけるらしいよ。一度、初台駅で集まることで13時頃ぐらいで」

「それじゃ、荷物用意するか」

明久と雄二は荷物をまとめ始めた。

明久 荷物

ケータイ、財布、携帯ゲーム、懐中電灯、スタンロッド（ダ1D8 + d b）×2、針金、防刃シャツ（刃に対して装甲+1）

雄二 荷物

ケータイ、財布、懐中電灯、スタンロッド（ダ1D8 + d b）、メリケンサック（1D3 + 2 + d b）、防刃シャツ（刃に対して装甲+1）  
「しかし、スタンロッドって獣人間に通用するかな？」

「なら、前にお前に罰ゲームで買わしたスタングレネード持って行くか?」

「1個しかないんだよね。前に買った防刃ベスト着ていく?」

「いいだろう、防刃シャツ着ているし。これ着れば多少まし程度で十分だろう」

「そうだね、須川会長率いるFFF団みたいなから襲われないからね」

そう言いながら僕達は新宿駅に向かった。

SED AUT

SED IN 木下姉妹 ↑姉『妹』じゃないのじゃ〜

「・・・、さて荷物を用意するかのう」

「何してるの、秀吉?」

「姉上か。実は友人に獣人間でも見つけにいかないかと誘われてのう」

「たしか、吉井明久君と坂本雄二君、土屋康太君だったかしら?」

秀吉の回答に優子が思い出しながら名前を言っていた。

「そうじゃよ。姉上もくるかのう? (まあ、姉上は誘ってもこんじゃろうがのう)」

「いいわね、行ってみるわ」

「そうじゃった・・・ええ、本当にくるのかのう?」

秀吉は優子の予想外の発言に驚いた。

「まあ、少しは気分転換にもいいし、一度男の子がどんなふうにいるのか気になるからね」

「それなら、持って行く荷物を用意するかのう」

秀吉 荷物

ケータイ、財布、変装道具一式、懐中電灯

優子 荷物

ケータイ、財布、懐中電灯、ヘアピン

「懐中電灯なんて持って行くの?」

「旧初台駅を行った後夜の青山霊園に行くからのう」

「それ、不法侵入じゃないの!?!」

「大丈夫じゃろう。バレても謝ればすぐ許してくれるじゃろう」  
「まさか、いつもそんなことしてるんじゃないでしょうね？」

秀吉の言動に優子が怪しんだような目を向けた。

「そ、そんなわけないのじゃ。よくやるのは、明久や雄二が主じゃ」  
「中学生の時、『悪鬼羅刹』とか呼ばれてた坂本雄二君と今年初めて執行された『観察処分者』の吉井明久君だったよね？」

「確かにあつとるがそんなに悪い奴らじゃないのじゃ」

「そんなこと分かっているわよ。あんたがバカなのは知っているけど人の見る目は確かだし」

「信用してくれるなら構わんが・・・姉上の趣味『BL』に巻き込まないでくれるとうれしいんじゃない？」

「分かっているわよ。そんなことするわけないじゃない」

優子はそう言っていたが秀吉にはとても胡散臭く感じた。

sed aut

sed in 土屋康太《ムツツリーニ》

「・・・わかった。用意する」

ムツツリーニは明久の電話を聞いて持って行く物を用意した。

ムツツリーニ 荷物

スタンガン、十徳ナイフ×3、ヘアピン×5、サバイバルナイフ（1  
D4+2+db）×2、一眼レフ一式、スタングレネード×10、防  
刃シャツ（装甲+1）、懐中電灯、消音シューズ（移動時、自分の足音  
に対して聞き耳―10）、集音器×4（聞き耳+20）暗視ゴーグル×

4

さて、ムツツリーニは一人何しに行くのであろうか？

「・・・これぐらい用意しないとだめだからな」

本当にこの人何しに行くんだ？

## 旧初台駅に集合

新宿駅 12:45 吉井明久

「しかし、意外と重装備だったかな？」

明久は、ウエストバックの中に入っているスタンロットを思いながら待ち合わせ場所にしてる時計台の下で待っていた。

(黒色の長袖に黄緑色のパーカーを着ている)

「まあ、いいんじゃないか？用意し忘れてヤバいことに巻き込まれたとき対処に困る方が大変だ」

(黒色の長袖に赤色の半Yシャツを着ている)

二人がそんな感じで秀吉やムツツリーニを待っていた。その姿を見た女性の反応がこちら

(「ねえ、あの二人よくない?」)

(「ワイルド系に可愛い系だよね」)

(「絶対彼女いるよ」)

APPが13(雄二)に16(明久)の二人が並ぶと絵が栄えるのである。そこにAPP14のムツツリーニがやってきた。

「・・・早いな。二人とも」

「ムツツリーニ、意外と遅かったな」

「そうだね。用意に手間取ってたの?」

「・・・服を選んだ」

(黒いTシャツに青の半Yシャツを着ている)

「全員、ケプラーのシャツ着てるね」

「まあ、ないよりまし程度だけど流石に冬じゃないからベスト着るのは不自然だからな」

「・・・奇異の目には止まりたくないからそれはイヤだな」

「しかし、意外と遅いね」

明久が時計を見ると13:10過ぎた頃だった。いつもなら集合の10分前についてるのに。それから5分過ぎた頃に秀吉と優子がやってきた

「すまん、お主ら。少し用意に手間取ってしまった」

「ごめんなさい。私が手間取ってしまったの?」

「秀吉が二人!?!」

明久は秀吉に双子の姉が知らないかつあまりにも二人が似ていたため秀吉が二人いると錯覚した。

秀吉（半Yシャツにハートのペンダントを着ていた）

優子（春に似合うファッションで）誰か組み合わせ教えてorz

「・・・確か、姉の木下優子だ」

「そう言えば説明し忘れたのじゃ。実は電話の後姉上もついてくるって事になってのう」

「そう言うわけでよろしくね。吉井君に坂本君、土屋君」

「それは別に構わないが俺たちの指示に従ってくれよ」

「分かってるわよ、坂本君」

雄二の言葉に優子が頷いた。

「で、土屋君は何私たちを撮ってるのかしら?」

「・・・木下姉妹の私服写真撮影」

「ムツツリーニ、止めるのじゃ。それに姉『妹』じゃないのじゃ」

ムツツリーニが秀吉と優子の周りを飛び回って写真を撮っていた。

写真術60%↓08 成功

とても綺麗な写真が採れた。

「土屋君止めてくれるかしら?あと、後でデータを消さしてもらおうわよ」

「・・・了承かねる」

「ムツツリーニ、流石にカメラの中のデータを消してやれよ。警察のお世話になりたくないなら」

「・・・了解した」

ムツツリーニは雄二の忠告に従ってカメラの中にあるデータは消した。

「さて、初台駅に入っていくか」

雄二の合図で中へ入っていった

S I D O U T

S I D I N ???

??? 「ああ、こちらツヴァイ。今、新宿駅から侵入した」

??? 「そこに\*\*\*の\*\*\*と○○○を調べてくれ。\*\*\*は出来る限り生け捕りにしろ、それなりに練度が高いだろう。こちらとしても人数が足りないからな」

??? 「それは良いですけど、一般人が『探索者』となっていたらどうします?」

??? 「あの邪神が関わってないのを祈るのみだな。君もあの厄介さは知ってるだろ?」

??? 「まあ、関わっていたら『保護』をしますよ。邪神に気に入られていたらどうせ俺も巻き込まれるだろうし」

??? 「もし、一般人もしくは『探索者』が\*\*\*か○○○を目撃した場合は『保護』を行い、もし\*\*\*と交戦するほどの強者なら協力をえることを許可する」

??? 「了解しました、ボス」